



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、教育研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

平成29・30・31年度 高知市研究協力校研究発表会（教育相談・生徒指導） 令和元年11月29日（金）実施

「個々の児童についての理解を深め、誰もが居心地のいい学級作りをめざす」

高知市立長浜小学校

スマイルタイム

月曜日の5校時を全校で統一して学活の時間とし、始業10分程度を使って、スマイルタイムと名付けたグループアプローチに取り組んでいる。この日、公開されたスマイルタイムでも設定された四つの活動のうち各クラスごとに一つを選び、取り組んでいた。子どもたちが生き生きとやりとりをしていて、お互いに関わり合う楽しさが広がっている様子だった。

活動内容

- ・ どちらをえらぶ
- ・ しゅもんじゃんけん
- ・ アドじゃん
- ・ いいところみつけ

活動時の約束

- ・ おねがいします
- ・ ありがとうございます
- ・ うなずきながら聴く



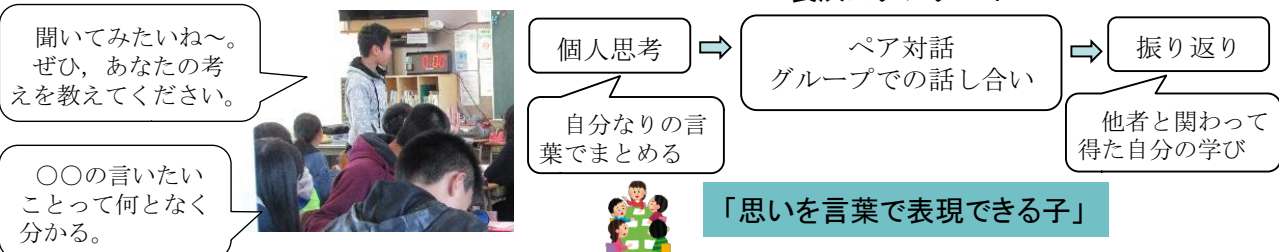
様々な活動の様子の展示

※ 研究の取組については、所報「研究」（10月号）をご覧ください。

公開授業 全クラス 国語科・算数科等

落ち着いたトーンで授業をしている学級が多く、やわらかい笑顔と優しい口調の語りかけが印象的だった。

長浜スタンダード



講演 「子どもと教師が信頼を紡ぐ学級作り」

桃山学院教育大学 松久 眞実 教授

教育の不易とは・・・ 信頼している先生、好きな先生、尊敬している先生の言うことには従う



きちんと褒め、きちんと叱ってくれる先生



やる気にさせる褒め方

- ① ホッチキスで留めるように褒める…10分、15分の短いスパンで褒める
 - ② 褒めることだけに絞る
 - ③ すかさず褒める
 - ④ 非言語で褒める…にこっと笑う、グッドサイン、OKサイン
 - ⑤ 前倒しで褒める…例えば、しゃがんでいたら、「うわあー、ゴミ拾ってくれようとしてるね」と褒める（本当は違っていても）
 - ⑥ 事実だけ認める…ノート開いてるね、いすに座ってるね
 - ⑦ アイメッセージで褒める…私が主語になる言葉で、自分の気持ちを伝える
ありがとう、うれしい、助かった
 - ⑧ 相手のこだわりを褒める…自閉傾向の子どもには効果的
 - ⑨ 驚く！うける！…子どもといっしょに楽しく笑う
- ※ 発達障害のある子どもには、褒めることが支援となる



「私たちは、子どもたちを育てる。そのためには、先生と子どもとの信頼関係を築くことが大切。先生は、子どもたちの成長を応援してあげてください。」

概要

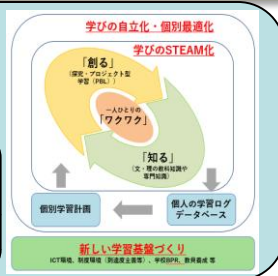
高知市立高等学校教育の現状と課題への理解を深めるとともに、高等学校の教職員としての自覚を深め、資質・指導力の向上を図る。

【講義・演習】 「『未来の教室』の実現に向けて」

経済産業省 商務・サービスグループ サービス政策課 教育産業室 室長補佐 柴田 寛文 氏



- EdTech (Education Technology) による教育イノベーションを
 - 一つ一つの個性・才能を傷つけず、大事に育てる教育を
 - 学ぶ意味「創る・知る」や楽しさ「ワクワク」の分かる教育を
 - 学校教育と民間教育の両立・連携を
 - 「未来の教室」の構築に向けて
- 三つの柱
「学びの自立化・個別最適化」
「学びのSTEAM化」
「新しい学習基盤づくり」
- STEAM…Science (科学),
Technology (技術),
Engineering (工学),
Arts (リベラルアーツ),
Mathematics (数学) の略



【講義・演習】 「人工知能×アダプティブ・ラーニング！クラウド型学習システム『すらら』」

株式会社すららネット マーケティンググループ サブマネージャー 久保田 航 氏



- クラウド型学習システム「すらら」ネット「教育に変革を、子どもたちに生きる力を」〈学力向上のポイント〉レクチャー＝理解→ドリル＝定着→テスト＝活用のサイクルを、個の弱点に応じて行える
- 1 生徒の「学習生産性・学習効果向上」→授業時間内でこれまで分らなかったことが分かるようになる・自分のペースで学習を進められるようになる
- 2 教員の指導生産性の向上→マンパワーでは限界があったコーチングを授業内で多く実施する
- 3 生徒の学習意欲の向上→「スタディエログ」に基づく教員からの声かけや「分かる」経験を繰り返すことで、学習へのモチベーションの向上を図る

【講義・演習】 「MaaSを題材としたSTEAM教育コンテンツのご紹介」

Institution for a Global Society 株式会社 事業統括責任者 取締役 中里 忍 氏



- MaaSとはMobility as a Service
ICTを活用して交通をクラウド化し、公共交通か否か、またその運営主体に関わらず、マイカー以外の全ての交通手段によるモビリティ（移動）を、一つのサービスとして捉え、シームレス（滑らか）につなぐ新たな「移動」の概念（出典：国土交通省）
- 高等学校における効果的な課題解決型学習を目指し「モビリティ（移動）」をテーマに、高校生の気質や能力に合ったプログラムの提供とグループ分けで、教育効果を実証した取組を紹介（数学的な意思決定の重要性と方法）

【講義・演習】 「観光予報プラットフォームDS (Data Science) ～世界はデータで動いている。～」

株式会社JTB 営業開発プロデューサー 高知尾 昌行 氏



- 観光に資するビッグデータ「観光予報プラットフォーム」・「気象」・「地域経済分析システム」を活用したSTEAM学習から、証拠に基づく立案や、それを表現できる力を養う
観光予報プラットフォームは、「実績（過去）」だけでなく「予約（将来）」の宿泊ビッグデータを全国市区町村単位、1日単位で提供
 - 1 街の特徴（課題）を見つける
 - 2 データ分析を行い相関関係を調べる
 - 3 「旅」作りから経済効果を算出する
- 地域経済を学ぶ
（雲海が見られる最適な旅行の日を過去の宿泊混雑状況や気象データから予想的中させるなど）
「来客予約」「客層分析」「入店・購買率」「相関分析」などを行い需要予測に反映

【質疑・応答】 4グループに分かれ、講師1名につき10分間のディスカッション

・ 一人一台のパソコン導入など、ICT教育においても教育内容が変わりつつあるが生徒に教えるには専門家やパソコンに長けた人がよいのではないか。

→ まずは、先生方が恐れずに子どもと一緒にツールを使ってほしい。使いこなせなくても挑戦し、試行錯誤しながら子どもと共に成長してほしい。（他にも多数質問あり）



【受講者の感想】

「未来の教室」実現に向け、今後の商業教育はどうあるべきかを考えた時、AIを活用した知識・理解の定着は生徒たちにとって効果の高いものであり、教員の負担軽減や時間削減になると感じた。学習範囲や評価といった課題はあるが、まずは導入し、教員はサポートやファシリテーターとなり、生徒たちを学びに向かわせる必要がある。その中で、今後の商業教育が果たす役割は、自らの地域の課題に取り組むことや、他者と協働すること、地域と関わった探究型の授業に挑戦することといった、AIでは指導できない部分を実践することだと思う。また、経済産業省が常に今後の経済社会の中で必要な能力や人材を先取りして考えており、文部科学省のみならず経済産業省と連携を図っていくと、効果的な教育が実践できるのではないかと感じた。

ご意見・ご感想を高知市教育研究所 教職員研修班までお寄せください。